

諧, 誹

二十五條

全



能新乃道と云ふ事

何人曰能新は何の事か
と云ふ者曰信後年法と云ふ事
た之より又同一法入道と云ふ事
亦亦名信者道達所の信道は在
る所ありて道地實有信道破り
に能く何と云ふ事と云ふ事
道に在る道に在るの道理あり
と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此次に立く事法に向くの一
は也



口傳二白宗三有

春秋心法履藤之秘授

二、三、の二字の

此類の二字は古来に於て段金
字書成引く誹ハ非ハ音ナリ
或は史記の潜枕古と引く此は字に
定しそしとて穿鑿の理を明し
る事とし古今集より誹の字と
用ひ来りたる事とし以類古實と
誤とし其とありに用ひしとて
むハ中御抄も此類と誹語ハ二種
とてし我家のそしといふを古今
看破とて眼より玄とて新とて名を
別にたれといふれとて言語には

言道理が我が家にてい
り二字とて去る人し他門に對て
穿鑿金とてい

虚実凡

萬物は虚にいり實に働けり實は虚を
虚に働けり今に實をこととて人
眼るとは海あり譬はもの散るところ
し三月のうらむとて情を
實は情むを連ふは實は虚は情
をいといの實は情詩を連此と
云わいには虚をこはりしとて示
實は情むを連ふは實は虚を

第こののめまに文字より定りたること
ししりれぬ及るのやうあれしと
入る事とせむとせむとせむと入
及らんたらんしし理とせむと
そこのの字とての字もせむとせむと
とせむとせむとせむとせむと
第こののめまに文字より定りたること
ししりれぬ及るのやうあれしと
入る事とせむとせむとせむと入
及らんたらんしし理とせむと
そこのの字とての字もせむとせむと
とせむとせむとせむとせむと

第こののめまの推量

こののめまに文字より定りたること
ししりれぬ及るのやうあれしと
入る事とせむとせむとせむと入
及らんたらんしし理とせむと
そこのの字とての字もせむとせむと
とせむとせむとせむとせむと

四の目軽

こののめまに文字より定りたること
ししりれぬ及るのやうあれしと
入る事とせむとせむとせむと入
及らんたらんしし理とせむと
そこのの字とての字もせむとせむと
とせむとせむとせむとせむと

乃人きいづ月せり目もそす
のにちるしとていしと代人し
竹字しいはくあくとし細か
都て月もそれ折る道をも
をあくしついで道程をしは
さめし月もそのりに新し
とそむいふは三の首尾は
たにしあうて毎に伊のり
しとてしつねしやうに
置入しとてしつねとて
うし
むに極はるる

世に後と云そ極入りしと
とつれしととは萬のの
多し人しとて年を極の
かしを深むのしとてやう
とのつれしとて貴人
にさるるしとてしとて
とまらぬ季にして植む
ハ一 茂春の及ちす
をし古しとて心にしと
傳受りしとて心にしと
すしとて心にしとて
にあしとて心にしと

て附へさく後方の植めとくといはれ
ふて御ふへ——但後梅に河を
根に河をさるるもしつらんといふと
我家の梅もいと御ふへ——

口傳いしるの

南季おの栗平のり

月も入のりふとくまにはは季の附り
にも季の栗平のりふとくまにはは季の附り
のりふとくまにはは季の附り
栗平のりふとくまにはは季の附り
とくまにはは季の附り
栗平のりふとくまにはは季の附り
とくまにはは季の附り
栗平のりふとくまにはは季の附り

の二三のりふとくまにはは季の附り
栗平のりふとくまにはは季の附り
とくまにはは季の附り
栗平のりふとくまにはは季の附り
とくまにはは季の附り
栗平のりふとくまにはは季の附り
とくまにはは季の附り
栗平のりふとくまにはは季の附り

二季に渡はるのり

太き二季に渡はるのり
栗平のりふとくまにはは季の附り
とくまにはは季の附り
栗平のりふとくまにはは季の附り
とくまにはは季の附り
栗平のりふとくまにはは季の附り
とくまにはは季の附り
栗平のりふとくまにはは季の附り

本意を平のりてい移合録へおん
たのむのりあしむたしかに
物もあしむるまじくしむのりあしむ
せんまじく及ますし移合録を
乃移合となく文字のりあしむ
せんまじくしむのりあしむ

及古の懐やりのり

及古の懐やりのりのり
乃移合となく文字のりあしむ
せんまじくしむのりあしむ
乃移合となく文字のりあしむ
せんまじくしむのりあしむ

及古の懐やりのりのり
乃移合となく文字のりあしむ
せんまじくしむのりあしむ
乃移合となく文字のりあしむ
せんまじくしむのりあしむ

附のりあしむのり

及古の懐やりのりのり
乃移合となく文字のりあしむ
せんまじくしむのりあしむ
乃移合となく文字のりあしむ
せんまじくしむのりあしむ

たけは極

浄土公堂

徳信原

村多

浄土の

の御子

右まね入りの題白し

あつた題白とて定置しつゝいそげ
と或ふ代にしつゝいそげつゝい
和らに思ひおき苗のいそげつゝい
あつた代のいそげつゝい
そ人の代白しつゝい
字三つをいそげつゝい
とつゝい
好悪の事

人我の事
今一の事
その事
か
い
ん
は
は
か
せ

切字はし諸おにうししはしし
し由代せえおふ雅量ぬ一太田一
亥お切おしししおおのしし
我おのありしし證おのしし
しし書にししし證のししし
しし通れししししししし
三段お一字おあししし今の證の
らおししし

二字切

しししししししししししし

三字切

しししししししししししし

三段切

概おらしししししししししし

しししししししししししし

しししししししししししし

しししししししししししし
しししししししししししし
しししししししししししし
しししししししししししし
しししししししししししし
しししししししししししし

四字切

しししししししししししし

しししししししししししし

いづれはやはりの人ばいぬいぬ
おののち箱のむかひのあまのしよた
ふしのあまのしよたの松れ境
あまのしよたのあまのしよた
ふたまたま中の変えしあまのしよた

三十一日 是日 月有 月有 月有

此のあまのしよたのあまのしよた
三十一日 是日 月有 月有 月有
あまのしよたのあまのしよた
あまのしよたのあまのしよた
あまのしよたのあまのしよた

おののち

あまのしよたのあまのしよた

あまのしよたのあまのしよた
あまのしよたのあまのしよた
あまのしよたのあまのしよた
あまのしよたのあまのしよた
あまのしよたのあまのしよた

あまのしよたのあまのしよた
あまのしよたのあまのしよた
あまのしよたのあまのしよた
あまのしよたのあまのしよた
あまのしよたのあまのしよた

乃くははまあへる後一の月
のまゝいふいふいふいふいふいふ
ことまゝいふいふいふいふいふいふ
のまゝいふいふいふいふいふいふ
のまゝいふいふいふいふいふいふ

名所には雑のりいふいふ
名所のまゝいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふ

胡はは雑を流にすいふいふ
のらあはははははははははははは
燭牛角ゆいふいふいふいふいふ

此中貝二胡石のりいふいふのまゝ
いふいふいふいふいふいふいふ
葉いふいふいふいふいふいふいふ
をいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふ
格まゝいふいふいふいふいふいふ

とつふいふいふいふいふいふ
假名送遺いふいふいふいふ

せにまゝいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふ

美しきもの... 森木... ぬき... こと... ぬき... ぬき... ぬき...

ツキキク 鯛鯉類
ヒフヒヘ 葵雛類

つしきひひか... 序去...

おしきんか 山とろ
小捕成の字 をに日

れ おしきんか 山とろ

語と小とらの字を... 大不底... ちは口上下に用

こととに用三輪の竹... 息声柄の影... 之中より消...

い所を杖し... へんふる... 常人も... 縁之... 口停...

のふ勤勤し
 紅クをサーイー 又井トモセ
 住居 雲此メスモヒ 山ノ夕ノスモヒ
 法仲 ホウニ ホウニ ホウニ 拾三ツ イ 拾三ツ イ
 雑 ホウニ 拾三ツ イ 拾三ツ イ
 ち ホウニ 拾三ツ イ 拾三ツ イ

右者他階の新式者二十五ヶ條最我
 家の第一目し昂お落抑合自
 与去来見し識し明自色之他階
 不の傳字池人日收通之等三呈し

二十時之祿七甲戌六月日

芭蕉
 批青判



